

会 議 録

1 会議名

令和4年度上越市要保護児童対策地域協議会代表者会議

2 議題（全て公開）

(1) 令和3年度の児童虐待の実態と取組状況について

① 上越市すこやかなくらし包括支援センター

② 上越児童相談所

(2) 令和3年度上越市要保護児童対策地域協議会の活動実績

(3) 令和4年度上越市要保護児童対策地域協議会の実施計画

(4) 意見交換等

3 開催日時

令和4年6月30日（木）午後1時30分から午後3時10分まで

4 開催場所

上越市役所木田第1庁舎4階 401会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・会 長：小林福祉部長
- ・関係機関等：神林義明、西山工三、佐藤まゆみ、熊倉克巳、桑原正博、内山洋、藤原幹雄、松本新一、諸橋孝二、藤田賢一郎、小島隆宏、鈴木博美、福田功、諸岡研史、茂原美智子、小山貞榮、古澤悦雄、上野光博、黒田陽、黒崎貴和子、中條美奈子、平原朝子
- ・関係課等：福祉課 宮崎課長、健康づくり推進課 田中参事、
保育課 小山課長、こども課 米山課長、
男女共同参画推進センター 道場センター長、
学校教育課 牧井課長、小山指導主事
- ・事務局：すこやかなくらし包括支援センター 渡辺所長、岩崎次長、川合副所長、細野保育士長、板垣主任、濁川社会福祉士

8 発言の内容（要旨）

開会

あいさつ 小林福祉部長

議題

(1) 令和3年度の児童虐待の実態と取組状況について

① 上越市すこやかなくらし包括支援センター

② 上越児童相談所

(2) 令和3年度上越市要保護児童対策地域協議会の活動実績

(3) 令和4年度上越市要保護児童対策地域協議会の実施計画

(1)～(3)までの質疑応答

古澤委員：早期発見し、虐待が改善した事例があれば、教えてほしい。

渡辺所長：保護者の抱えている悩みや心配事を解決することで、児童虐待の解決に繋がると考えているため、当センターでは保護者支援を中心に行っている。

小さなアザ・傷であっても、園や学校から連絡をいただいている。その際は保護者に対し、行った行為は虐待にあたることをきちんと説明するとともに、子どもに注意をするときは、暴力ではなく、言葉でしっかりと伝えるように話をしている。

その結果、保護者が子どもたちのことをよく見るようになったり、子どもたちときちんと向き合うようになり、改善した事例が多いように感じている。虐待行為は、繰り返してしまうことが多いことから、しばらく継続しながら、見守りをしている。

(4) 意見交換等

小林会長：保育園の現場の様子や園での保護者支援について、茂原委員からお願いしたい。

茂原委員：毎日子どもたちと接している中で、虐待が起こる前に未然に防止することが重要であると感じている。その日の気になった行動について職員間で共有し、降園時の際に、親子の様子を注意深く見守るよう努めている。

また、家庭間の出来事を敏感に感じ取ってしまう子どもの様子も、丁寧に見守るようにしている。

小林会長：同じく、幼稚園の現場の様子や園での保護者支援について、私立幼稚園連盟 諸岡委員からお願いしたい。

諸岡委員：特に気を付けていることは、朝の登園時と夕方の降園時、子どもの様子や親子の関係性について、変化を見逃さないようにしている。変化に気付いた時、職員間で情報を共有し、今後の対応について話し合いをしている。また、発達特性が見られ、何かしらの支援が必要な子どももいる。保育の現場として、これまでに至る成長の過程を把握し、対応することを心がけている。

小林会長：助産師の立場から、乳幼児を育てている家庭への支援や特定妊婦への支援について、黒崎委員からお願いしたい。

黒崎委員：新生児訪問等を通して感じることは、出生数が減少しているものの、産後うつなど、継続的な支援が必要な母子が増えている印象がある。今年4月から、健康づくり推進課の産後ケア事業が開始したことで、継続的に見守ることができる母子の支援体制が充実したことに感謝している。また、生後2か月から利用できる「ぷちベビー健康プラザ」も開始したことで、体重計測や相談が気軽にできるようになった。子育て中の保護者にとって、利用できる制度が増えたことはありがたい。今後も母子が孤立しないよう、事業を活用しながら支援していきたい。

小林会長：子育て中の保護者や子どもの育てにくさを抱えている保護者を支援する取組について、中條委員からお願いしたい。

中條委員：コロナ禍で外出を控える家庭が増え、子どもは他の子と関わる機会が減少し、保護者は他の保護者と交流したり、学んだりする機会が減少していることが心配である。

令和2年度に親の体罰が法律で禁止されたが、なかなか浸透していないと感じている。令和3年度においては、市民活動団体助成事業として、母親向けに虐待手法によらないしつけをともに考えるセミナーを開催した。また、支援者向けには、虐待の予防的な関わりについての学習会を開催した。

今年4月から「ぷちベビー健康プラザ」という事業を始めた。生後2か月から5か月までの子どもと、その保護者が対象である。体重計測をして、助産師に悩み相談もできる場であり、同じ年頃の同じ月齢の子を持つ親同士で話ができる時間も設けているため、ゆっくりのんびりできる場になっている。

また、地域と繋がる機会にもなっている。保護者の孤立を防ぐという意味ではとてもよい取組と感じているため、もっと利用してほしい。

小林会長：配慮を必要とする児童とその保護者に対する、学校での見守りや支援等につ

いて、小島委員からお願いしたい。

小島委員：学校現場では、とにかく朝の段階から、子どもたちのことをよく見るようにしている。教職員には、虐待が疑われる事案を発見した場合、ためらわずに管理職に報告するよう指導している。

小林会長：同じく、児童とその保護者への支援等について、藤田委員からお願いしたい。

藤田委員：児童虐待を防いでいくには、虐待の疑いがある子どもを発見し、通告することが重要だと考えている。

児童虐待に関する校内研修を行い、困っている子どもたちを絶対見逃さないという気持ちで、日々、子どもたちに接している。

小林会長：小中学校に対し指導及び支援する立場として、学校における様々なケースを把握している桑原委員からお願いしたい。

桑原委員：子どもの問題行動については、どのような要因が背景にあるのか、子ども本人や学校への聞き取りが非常に重要だと考えている。

関係機関には、すべての子どもたちに寄り添って、些細な変化を見逃すことなく、情報共有をして、組織的に対応するよう、話をしている。

小林会長：児童相談所より、コロナ禍の休校で虐待の発見がしにくくなっていることで、通告が少なくなってくる可能性があるのではないかというご意見がある一方で、資料1の(5)の情報提供者の内訳からは、学校からの通報件数が増えていることが読み取れる。臨時休校中や学級閉鎖中の状況について教えてほしい。

牧井課長：令和2年度は、実際に臨時休校となった学校が多かったため、学校現場での虐待の発見は、全体的に少なかったかと思う。しかし、臨時休業後は通告が多かったと認識している。

令和3年度は、一斉臨時休業となることはなかったため、通告は例年並みもしくは多かったと認識している。

小林委員：面前DV等の現状について、内山委員からお願いしたい。

内山委員：面前DV等、夫婦間トラブルが、児童虐待に繋がっていると感じている。

警察本部や児童相談所と連携しながら、子どもの安全確保を最優先に心がけている。

小林会長：指名させていただいた方以外で、ご発言をお願いしたい。

上野委員：小児科医からは、医療情報の保護の問題やその後の保護者との関係性もある

ため、通告することへのジレンマを抱えていると聞いている。
現場の医師がどのような対応をしているのかが見えにくいと感じている。今後、医療現場においても、虐待防止に向けて連携の取りやすい環境を整えていく必要があると考えている。

小林会長：他にございませんか。

神林委員：児童虐待に対する取組としては、「SOSミニレター」というのを小中学校の協力を得て、全小中学校の子どもに提供している。ミニレターを通じて、児童虐待を早期に把握し、関係機関と連携を図りながら、取り組んでいる。
また、専用相談電話の「子どもの人権110番」というフリーダイヤルを設置して、法務局職員や人権擁護委員が相談に応じている。

小林会長：児童虐待の防止に向けて、子どもや保護者に寄り添いながら、必要な機関や支援に繋げていく必要がある。引き続き、関係機関による協力をお願いしたい。

終了

9 問合せ先

福祉部すこやかなくらし包括支援センター TEL：025-526-5623

E-mail：sukoyaka@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。